非西欧文化圏における家族・親密圏の理論的概念の構築
― 東アジアと東欧における知識社会学的フィールドワーク研究 ―

Constructing Theoretical Concepts of Family and Intimacy in a Non-Western Context: A Knowledge-Sociology Fieldwork in East Asia and East Europe

ライカイ・ジョンボル・ティボル（京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員）

【ねらいと目的】

家族社会学研究・テキストが西欧中心となっている傾向を問い直し、世界的な公共圏と親密圏の同時的変容が顕著な形であらわれている「アジア化」現象を理論的・実証的対象として、家族社会学の「更新」可能性を追究することを目的とした。関連して、非西欧文化圏においてもっとも先端的な地域であり、親密圏の変容がもっとも議論されている東アジアと東ヨーロッパを事例とし、家族に関する独自理論・概念の発掘・発展を目指す知識社会学的なフィールドワーク研究をおこなった。具体的には、東アジアの研究機関のなかでも独自の位置にある中国・上海社会科学院とのネットワークを中心に、台湾・中央研究院社会学研究所、韓国・ソウル国立大学との連携をとり、また東ヨーロッパではハンガリー科学院社会学研究所と連携をとりつつ、各国の学問的中心地におけるデータ・資料・テキスト収集と研究者への聞き取り調査（ヒアリング）をおこない、そこから各国の「家族」や「親密圏」等をめぐる概念資源の配置等を明らかにしていくことを目的とした。

【活動の記録】

◆研究会・ワークショップ

1. 2009 年 7 月 25 日　報告者：ライカイ・ジョンボル
   報告題：「对照台湾与日本的家庭社会学研究：指出一些概念上的区别」
   （Doing Family Sociology in Taiwan and Japan: Focusing on Some Conceptual Differences）
   『京都大学・台湾大学－東アジア社会学国際学術検討会』グローバル COE プログラム
   ≪中国語≫

2. 2009 年 8 月 11 日　報告者：ライカイ・ジョンボル
   報告題：“Paradigm Shifts in Non-Western Sociological Textbooks? Taking Hungary, China, Taiwan and Japan as Case Studies”, at the American Sociological Association (ASA) Annual Meeting, San Francisco　≪英語≫

3. 2009 年 10 月 11 日　報告者：ライカイ・ジョンボル
   報告題：「家族社会学テキストにおける『パラダイム転換』問題 ― ハンガリー、中国、台湾、日本を事例として」　日本社会学会（立教大学）　≪日本語≫

4. 2009 年 10 月 31 日　報告者：ライカイ・ジョンボル
報告題：「社会主義近代化に伴う『空虚な個人化』問題 ― ハンガリーを事例として」
京都大学文学研究科グローバル COE プログラム「多元的近代」共同研究会
≪日本語≫

5. 2009 年 11 月 22 日　報告者：ライカイ・ジョンボル
報告題："Discourse and Family: How Textbooks Are Written in the Field of Family Sociology?"
The 2nd Next-Generation Workshop, GCOE Program, Faculty of Letters, Kyoto University
≪英語≫

6. 2010 年 2 月 16 日　報告者：ライカイ・ジョンボル
報告題：「ハンガリー、韓国、台湾、中国の学術論文における『家族主義』概念の比較研究」
京都大学文学研究科グローバル COE プログラム成果報告会　≪日本語≫

◆調査

1. 2009 年 7 月 5 日～7 月 15 日　調査者：ライカイ・ジョンボル
調査地：台北市（中央研究院）
調査目的：中央研究院社会学研究所を中心として家族関連のテキスト（資料）・統計データを収集すること。独自理論・概念などについて現地の（家族）研究者にヒアリングをおこなう。日本に帰ってから、収集された資料・データを分析すること。

2. 2009 年 10 月 4 日～10 月 10 日　調査者：ライカイ・ジョンボル
調査地：上海市（社会科学院）
調査目的：上海社会科学院を中心として家族関連のテキスト（資料）・統計データを渉猟すること。独自理論・概念などについて現地の（家族）研究者にヒアリングをおこなう。日本に帰ってから、収集された資料・データを分析すること。

3. 2010 年 1 月 23 日～1 月 30 日　調査者：ライカイ・ジョンボル
調査地：ソウル市（ソウル国立大学）
調査目的：ソウル大学社会学科を中心として家族関連のテキスト（資料）・統計データを収集すること。独自理論・概念などについて現地の（家族）研究者にヒアリングをおこなう。日本に帰ってから、収集された資料・データを分析すること。

【成果の概要】

以上の研究計画にそった調査を通して、まず、各社会における家族をはじめとする親密圏と公共圏の同時的変化をもっとも明確に特徴づける（共通した）現象として、「家族主義」に注目する必要性が明らかとなった。家族（親密圏）と外世界（公共圏）の関係性に関わる家族主義の現象は、東アジア・東欧社会にある程度、共通のものであると同時に、実態としても概念としても多くの多様性を含んでいる可能性があった。ゆえにその現象・概念を中心とした国際比較研究は、今まで家族の内部過程に注目していた西欧中心の家族社会学研究・テキストを問い直す可能性を秘めていると考えられたからである。本研究では、とりわけ「家族主義」に対する各社会での学術世界の意識（＝「家族主義」の概念化・理念化）、学術的に用いられる「家族主義」という言葉に、どのような顕在的・潜在的意味が付いているのかを検討課題とした。

その結果、「家族主義」概念は「家族」概念と同じく、社会や時代、論者によって異なる意味で用いられていることが改めて示された。ハンガリーの学術論文では家族と外部世界との関係に重点が置かれており、家族主義について二つの意味（イデオロギー的・実態的家族主義）が区別されているが、韓国ではむしろ家族の内部関係が重視されており、家族主義の概念に関しては少なくとも四つの意味（儒教思想的・手段的・西欧近代的・個人主義的家族主義）が区分されている。それに対して、中国ではむしろ家族の「形態」に焦点が当てられており、大都会に移動する農民同士の家族的関係をはじめとする「泛家族主义（pan-familism）」などの概念から家族主義が慎重に議論されている。また、「家族主義＝国民性」または「家族主義は東アジア諸社会の経済的奇跡の基」だと主張する台湾では、対象とした諸国の中で家族主義がもっともポジティブに論じられている傾向がみられる。「家族主義」の概念化の違いに影響を与えているものは各社会の歴史であると考えられる。例えば東アジアに限定しても、計画経済から市場経済へと変化するなかで都会と農村を制度的に二つにわけている中国、終戦時に日本ほど伝統家族体制がアメリカによって批判されなかった台湾、また台湾と異なり天皇家族主義の日本の植民地時代を現在でも非常に意識している韓国、などの歴史的背景が背後にあると考えられる。このように各社会の研究機関で蓄積した学術論文等をとおして、「家族主義」概念の差異が具体的に示されることによって、その概念を今後、共有化していく可能性が開かれる。